

# 11月は児童虐待防止推進月間です



オレンジリボンには、子どもの虐待を防止するというメッセージがこめられています。



## いちはやく 虐待かもと思ったら189番へ

児童相談所全国共通ダイヤルが3桁の番号になりました。  
189番へかけるとお近くの児童相談所につながります。  
子どもたちや子育てに悩む保護者のSOSの声をいちはやくキャッチ!

地域ぐるみの見守りが大切です

平成25年度に全国の児童相談所にあつた児童虐待の相談は、7万件を超え、過去最多の件数となりました。新聞等で報道される児童虐待の痛ましい事件は後を絶ちません。これは、出雲市においても例外ではありません。

児童虐待とは、親や養育者が、子どもの心や身体を傷つけ、子どもの健やかな発育や発達に悪い影響を与えることを言います。児童の虐待は、身体的、精神的、社会的、経済的要因が複雑に絡み合っており、起るとされています。近年は、少子化や核家族化が進み、地域社会からの孤立がこの要因となることも少なくありません。どんな家庭でも起こりうることも言えます。

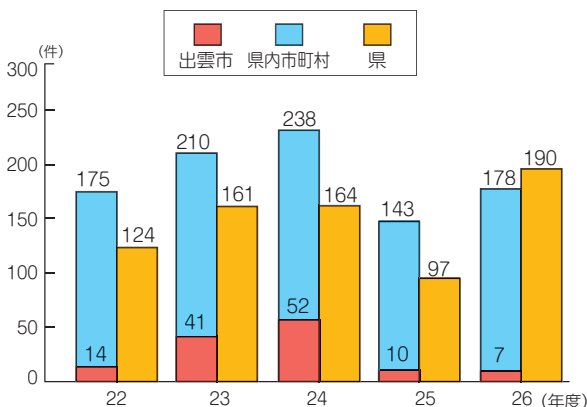
市では、子どもが健やかに成長していくためには、地域ぐるみでの見守りが大切と考えています。地域で支えられていると感じることで、子育てへの不安感が和らいだと話すと子育て世代の声も多く聞かれます。

子育て家庭の様子がおかしいと感じたときには、迷わず児童相談所または市にご相談ください。虐待を未然に防ぐことにもつながります。

「もしかして」「あなたが救う小さな手」

### 平成26年度 児童虐待の現状

児童相談所(県)と出雲市・県内市町村が対応した児童虐待相談件数の推移



(注) 県内市町村が対応した件数と、県が対応した件数には重複あり。(重複件数/平成22年度66件、平成23年度87件、平成24年度98件、平成25年度44件、平成26年度3件)

こんなときには  
すぐお電話ください。

- 虐待を受けたと思われる子どもがいたら。  
…あの子、もしかしたら虐待を受けているのかしら…
- ご自身が、出産や子育てに悩んだら。  
…子育てがつかなくてつい子どもにあたってしまう…
- 子育てに悩む親がいたら。  
…近くに子育てに悩んでいる人がいる…

連絡(通告)は  
「支援」の始まりです

- 出雲児童相談所 ☎21-0007
- 出雲市役所 子ども政策課 児童家庭係 ☎21-6604

- 児童相談所全国共通ダイヤル ☎189  
または ☎0570-064-000

(お住まいの地域の児童相談所につながります)

### 第3回 児童虐待防止と対応講座

「ともに進める児童虐待防止のネットワークづくり～顔の見える関係づくりをめざして～」

とき：12月5日(土)13:20～16:30

ところ：島根県立大学出雲キャンパス 2号館3階 大講義室

内容：グループワークによる事例検討を通して

話題・事例提供者：小村俊美氏(小村臨床心理士事務所 所長)

対象：どなたでも参加できます。

申込先：子ども政策課 (☎21-6604)

おたずね/子ども政策課 ☎21-6604

児童虐待予防と対策講座

市では、児童虐待防止の取組として、県立大学出雲キャンパスとの共催で講座を行っています。

今年度の第1回目の講座では、「親子関係のあり方を考える」と題し、子ども虐待防止センター理事の広岡智子さんから話を聞きました。子ども虐待防止センターは、東京都で児童福祉の向上に貢献した広岡知彦さんを中心に平成3年に立ち上がった民間団体です。

広岡智子さんは、支援が必要な子どものために自らの生涯をかけ、志半ばで急逝された夫の知彦さんの思いを引き継いで、子どもたちへの熱い思いを持って支援に取り組みられています。講演では、子育てが苦しくなった母親が、子どもを虐待するようになったことにならないよう行っている「MCG」の活動を紹介し、「これが虐待予防になっているかどうかはわからない。なぜなら何も起こっていないからです」と話します。この言葉に、母親に虐待は起こさせないという自信が垣間見えました。その講演の一部を紹介します。

講演「できていますか 怒って泣いて笑える子育て〜母親の心を軽くする支援について考える〜」



社会福祉法人  
子ども虐待  
防止センター理事  
広岡 智子さん

「怒って泣いて笑える」の順番には意味がある

いつも明るく元気なお母さんの子どもが暗い顔で気になることがあります。子どもは常に、お母さんの感情を敏感に察知します。お母さんが心の苦しさを隠し無理をしていると、子どもも穏やかではいられませぬ。「子どもの前で怒ったり泣いたり、自分の感情を出していいんだよ」と子育て中のお母さんに私は言います。自分の気持ちに素直であれば、心から笑うこともできるからです。

一見穏やかに見えるお母さんが、実は虐待に苦しんでいることがあります。この世で生きている限り、私たちは自分の意思に関係なく心が傷つくようなことに出会います。それをきちんと受け止める、虐待に至らないようにするためには、そのことを話せる人が周りにいることが大切です。ただ聞いてもらえるだけでお母さんたちは救われます。

子育てが苦しくなったお母さんの居場所「MCG」

東京で行っているMCG(母と子の関係を考える会)というお母さんの育児支援、虐待予防のための居場所についてご紹介します。

MCGは、子育てがしんどいと感じるお母さんたちがグループになって話をすることがあります。他人の話を否定したり批判したりしない「グループで聞いたことや話したことは持ち帰らずその場に置いていく」の2つです。相談員がファシリテーター(進行役)として会のサポートを行います。ここは「話したことを何でも話していい」ところです。

お母さんに、安心して参加できる居場所を提訴すること、しんどいと感じている子育てが、穏やかな気持ちでできるようなことを考えています。バリバリ仕事をし



会場で行われたMCGの模擬会

いた女性が、子どもを産んで家庭に入ると孤立に苦しむことがあります。子育ては同じことの繰り返しで、誰も評価してくれません。給料ももらえませんが、初めての子育ては苦しくて当然ですが、そう思えず自己嫌悪に陥ります。日々思い通りにいかない子育てに、お母さんたちは自分を追い込んでいきます。そんなお母さんにMCGで話してもらおうと、悩んでいるのは自分だけではない、特別なことではないということに気づいてくれます。最後に、お母さんは「怒っていいよ」という言葉にホッとした顔をして帰っていきます。

お母さんへの支援は話を聞くこと

子育てを支援する人や、周りで見守っている人が、お母さんに、「子どもを無視してはいけない」「子どもは愛さなければいけない」など言っているのは、屈辱感を与えることとなります。

なぜなら、ほとんどのお母さんにとって、それは分かっていることだからです。

分かっているにも、なぜ虐待に至ることがあるのか、支援者は、そのときのお母さんの気持ちを聞いてあげることが大切です。答えは出ないであろうことをただただ聞き、受け止めてほしいのです。支援者がお母さんの話を耳を傾けていると、お母さんは子育てを修正していく力を自ら発揮していきます。お母さんの力を信じるのが大切です。